





門 水 2  
號 4732  
卷

未加  
1827

勞孝幼兒手璋  
老生宿儒心鏡

# 點 傷

洛陽書坊柳枝軒



新點新例



わの國乃學問の経傳の事又の...  
見らるるて新點...  
と...  
か...  
代...  
事...



後く古雅な書にばかり目くたれず亦よ及次  
 去りれども宋儒の新編よめくは義古  
 新編よめくは義古よめくは義古  
 ひくく一冊をくむるもよめくは義古  
 久しきもよめくは義古よめくは義古  
 たるもよめくは義古よめくは義古  
 又近年坊間刊行の書もよめくは義古

記よあつてよめくは義古  
 初也も亦甚多<sup>オホ</sup>今わの國陋<sup>コト</sup>とよめくは義古  
 初学の入凡俗史子集後誦のよめくは義古  
 と考へ初法はくつてよめくは義古  
 浮華とよめくは義古よめくは義古  
 例法あつて一冊よめくは義古よめくは義古  
 ひくくはよめくは義古よめくは義古



點例

あつと博洽ハクカフの君子君子あやほりあやほりとら  
たつとるを補ひ給う補ひ給う是ま是まとらに給う  
ゆ處ありとつとるとつとる

え祿十六年仲冬日益軒貝原篤信書

*[Faint handwritten text, likely bleed-through from the reverse side]*



點例卷之上

總論

貝原篤信

編錄

凡訓點ヲ下スニ五ノワカチアリ一ニハ倭音ニ  
ヨム二ニハ倭訓ニヨム訓トハ音ニヨマスレ  
テソノ字ノ意ヲ以コトハニヨムヲ云和語  
ノヨミ也子日學而時習之マナフモトキニ  
モナラフモコレモ皆訓ナリ三ニハ出爾波是  
音訓ノ末ノ助語ナリ又テニヲハトモ云テ





二ハハ文字ノ音ノ未ニモ訓ノ未ニモヨミ  
付ル助字ヲ云凡カラヤマトノ書ヲヨムニ  
コレアリ本字ノ内ノユエトヨミハ。テニハ  
ニアラステニハハ音訓ノ外ナリ予曰學時  
習之ラ此右ノカタハラノノテニヲ皆出爾  
波也習フノフノ字ハテニハニアラス大學  
之道ハ在リ明德ニ在リ親民ニ在リ止ニ於ニ至善ニ此右ノ  
カタハラノカナモ皆テニハナリ知所ハ先後ニ  
又緝ル鸞ニ黃ニ鳥ニ穆ニ穆ニ文ニ王ニ瑟ニ兮ニ儻ニ兮ニ此等ノ右

ノカタハラノカナモ皆テニハ也和歌和文  
ナトニモテニハ多シ年ノ内ニ春ハ來ニケ  
リ一トセヲ此ノニハニケリヲナド皆テ  
ニハ也古今集ノ序ヤマト歌ハ人ノ心ヲタ  
子トシテ此ハノヲトシテ皆テニハ也又  
訓ノ内ニモテニハヲ付ル處アリ人不知不  
愾ラ此二ノヲノ字ハ訓ノ内ナレトモヲト付  
サレハヨミカタキユヘニ付レハ本訓モテ  
ニハトナル君子務本ノムノ字爲仁之本ル



ノ字吾且三省吾身三ノツ省ノル汎愛衆而  
親ニ此トツキト皆訓ノ内ナレトヨミヤ  
ウヲレラレメンタメニ付ル是亦テニハニ  
ナルナリ音ノ内ニハテニハナレ紛ラハレ  
カラサレハナリ凡音ト訓トノ外ヲハ皆テニ  
ハト云本訓ノ外ノテニハハ助字ナリ其内  
テニヲハノ四字多シ其外ニモアレト此四  
字ヲホキユヘニ是ヲトリテテニヲハト名  
ツク假字四十八字ノハレメノ三字ヲトリ

テイロハト名付レカ如レ一説ニテニハト  
ハ出テ爾葉ノ意草木葉出テイツレノ草木ト  
云事ヲレルカ如クナレハ。テニハト云トイ  
ヘリ是テニハト云名ニヨリテ故實ナキ事  
ヲ私ニツクリ出レ附會セルナリカヤウノ  
説スヘテ用ユヘカラス。四六返點ナリ是ハ  
下ヨリカヘリテヨムニ種種ノ差別アリ一  
二三ノ返點アリレノ返點アリ上中下ノ返  
點アリ甲乙丙丁ノ返點アリ。五六豎點是ハ



音ニテヨムニハ上下ノ文字間ノ右ニ豎點  
ヲ引ク。訓ニテヨミ或上カ下カ一字訓ニテ  
ヨムニハ上下ノ間ノ左ノカタハラニ豎點  
ヲ引。二字音ニヨムハ字ノ右ノワキニ引。訓  
ニヨムハ左ノワキニ引ヲ云凡ワカ國ニテ  
書ニ點シテ學者ニ便スルハ此五事ニスキ  
ス

經傳訓點ノ凡例 先註ヲ詳ニ考ヘテ義理ヲ  
明ニシ註意ニ合ハンコトヲ求ム次ニ字義

ヲ能考ヘ正スヘシ訓ニヨムトテニハトハ  
古雅ナルヘシ。訓モテニハモ麗飾ノ語ト鄙  
俗ノ言ヲ禁ス又訓モテニハモ無用ノ贅言  
ヲ不用。音ニヨマンヨリ訓ニヨマル、字ヲ  
ハ訓ニヨムヘシ但音ト訓ト各其處ノ宜順  
ヘシ。妄ニ訓ニヨミ妄ニ音ニヨム事ナカレ  
訓ニヨンテ意不足ハ音ニヨムヘシ。尊卑賢  
否ヲワカチ上下ノ例ヲ考ヘ習俗ノアヤマ  
リヲ察シ何讀ヲ正シクス助字ニアラサル



字ヲヨミヲトスヘカラス前後上下同例ヲ  
用ユ是大法ナリサレトモ處ニヨリ前後同  
字ニテモ連續同レクシテモ訓讀音讀力ハ  
ルヘシ同例ニカ、ハラス宜順フヘシ是訓  
點ノナラヒ也

日本後紀桓武帝十一年勅明經之徒熟習漢音  
或曰桓武帝延曆十七年勅ヲ下シタマヒテ  
五經ヲ漢音ニヨマシムコレヨリ以來十三  
經等亦皆漢音ヲ用ヒ吳音ニヨマズ史書諸

子モ大概ハ漢音ニヨム但文字ニヨリテ常  
語ノ音ニチカハサルヤウニ吳音ニヨミテ  
ヨキ字モアリカ、ハルヘカラス又詩文雜  
書及倭書ハ漢吳雜ヘテヨムヘシ倭書ハ多  
クハ吳音ヲ用ユ佛書ハ昔ヨリモハラ吳音  
ニヨム今釋氏ノヨム處皆然リ醫書ハ漢音  
吳音相マシユ今醫家ノヨム處シカリ  
官家ノ習ニハ古來ヨミ聲ノ高下アリソレハ  
有識ノ人ノシレレ事ナリ問ヘシ清濁ト漢



吳ノ別ハ古來ノヨミツケニソムクヘカラ  
ス

句讀ヲキル法 語勢スデニ絶タル處ノ右ノ  
傍ニ小圈ヲ加フルヲ句ト云語勢イマタ不  
絶シハラクヨミ切テ上下混雜セサラシム  
ルヲ讀ト云是上下ノ兩間ニ小圈ヲ加フ大  
學之道在明明德在親民在止於至善。道ノ  
字ノ下中間ノ小圈ハ讀ナリ其餘ノ右傍ノ  
小圈ハ句ナリ。予日學而時習之。不亦說乎。

之ノ字ノ下ハ讀ナリ乎ノ字ノ下ハ句ナリ  
應神天皇十六年百濟國ヨリ王仁トイヘル博  
士ヲ召ヨセ玉フ太子ニ經典ヲサツケ奉ル  
此時王仁論語千字文ヲ携來ル是日本ニ經  
典ノ來ルハシメ也此時ヨリ漢音ハジマル  
和訓モ王仁ヨリハシマリ王辰爾ヨリ定マ  
ル王辰爾ハ敏達帝時人也

上古ワカ國ニ文字ナカリシ事古語拾遺序及  
朝野群載所載大江匡房箱崎記ニ見エタリ



又三善清行昌泰四年勸文曰上古之事皆出口傳故代代事變應遺漏此等ノ説ヲ以證トスヘシ今巫覡ノ家上古ノ倭字ト稱シ符ニカク字アリ是遵生八牋等ノセタル中華ノ道士ノ符章カク僞字ノ類ナリ上古ノ倭字ノカタチ如此ナルヘカラス

通例

豎點右引 孝經曰仲尼間居曾子侍坐 凡コ  
エニテ二字ヲヨミツ、クルニハカヤウニ  
上下兩字ノ右ワキニ豎ニ點スヘシ間居カ  
ヤウニ兩字ノ中間ニ點スヘカラス上下ノ  
字畫ニ混シテアシ、其上左ノ方訓ヨミノ  
豎點左ノ方ニヨスル例ニチカヘリ  
豎點左ニ引 孝經曰母取其愛而君取其敬大  
學曰意誠而心正論語曰不亦悅乎又嗚呼於



戲之類凡二字ヲツ、ケテ訓ニヨムニハカ  
ヤウニ左ノカタハラニ豎ニ點スヘシ二字  
トモニ訓ニヨミ又一字ハ音ニ其愛其敬ナ  
ト、ヨムモ同

不用豎點 孝經曰教之所由生又曰言滿天下  
無口過行滿天下無怨惡論語曰吾日三省吾  
身之類凡上下ノ二字ヲ訓ニテヨミツ、ク  
ル時右ノ方ニ由生口過怨惡ナトノヤウニ  
テニハヲ付レハ由生口過怨惡カヤウニ豎

點ヲ付ル一ヲ不用右ノ方ニ付タルテニハ  
ニテ訓ニヨム事分明ナリ凡點モ訓モ事ス  
クナクシテ理明ナルガヨシ

相對ノ字傍豎點ヲ用 天地父母陰陽上下貴  
賤此類二字相對セル文字只一連アルハ右  
ノ傍ニカヤウニ點スヘシ二字ノ間ニ天地  
トカヤウニ點スヘカラス二字連續スレト  
モ其心各別ナレハナリ又三字四字五字モ  
右ノコトク右傍ニ豎點ヲ用ル事アリ天地



人 日月星 知仁勇 東西南北 仁義禮  
 智信 木火土金水 温良恭儉讓ナトノ類  
 也但コレハ只一連アル時ノ事ナリ二三連  
 以上ツ、キテ 天地日月又ハ日月星辰父  
 母兄弟妻子ナト、二連モ三連モ長ク對ス  
 ル事アリ如此ナルハ天地日月星辰父母兄  
 弟トカヤウニ右方ノ中ニタテ點ヲ引ヘレ  
 然ラスレテ右ノ傍ニ天地日月ト豎點ヲ引  
 ケハ二字連續セスレテ混雜ス是亦タテ點

ノナラヒ也  
 一 字右傍用豎點 音ニヨムヘキカ訓ニヨム  
 へキカノウタカヒアル字ヲ音ニヨムニハ  
 右ニ豎點スヘシ 孝經曰資於事父以事母  
 而愛同又曰敬同又曰制節謹度大學曰無所  
 不用其極ノ類ナリ又訓ニヨムヘキカ音ニ  
 ヨムヘキカノウタカヒアル字ヲ訓ニヨム  
 ニハ左ニ豎點引ヘシ 孝經曰愛親者又曰長  
 守貴或左ニ點セスレテ愛親守貴トカヤウ



二訓トテニハヲ付テモヨシ

又豎點ヲ不用 孝弟忠信仁義禮智德ノ字性ノ字天地乾坤陰陽詩書易禮樂ナトノ類皆訓ニヨマズシテ音ニヨム字ナレハマギレナシ右ノ傍ニ豎點付ヘカラス

返點ノ法 學而時習之 人不知而不愠 凡カヘリ點ハカヤウニ左ノ方ニヨセテ短ク點スヘシ上下ノ字ノ間ニ長ク入テ習之不知カヤウニスヘカラス上下ノ字畫ニ混シテア

レ、

不用玉之字 孝經曰仲尼問居トヨムヘシ間居トヨムヘカラス凡此類ノ玉ノ字イツクモヨムヘカラス玉ヲトヨムハ和文歌書ノコトハナリ經傳ニハ宜カラス印行ノ本ニ玉ノ字多キ點本アリ玉ノ字用ユヘカラス必テニハヲ用ル例 道千乘之國敬事而信道ノ字ミチヒク氏ヨミ敬ノ字ウヤマフ氏ヨムユヘニ 道 敬ト付ザレハマギル也



則以學文ノ以ノ字モ同 論議又曰道之以  
政不敬何以別乎凡凡ノ類各其意ニシタカ  
ヒ。テニハヲ付ヘシ。テニハナケレハヨミカ  
タシ道之以政不敬何以別乎ナト、ヨメハ  
アヤナリ也凡トヨムヘキヲスヘテトヨミ  
凡トヨム處ヲヨソトヨミアヤマラセシ  
ガタメニテニハヲ付ヘシ  
テニハヲ不用例 孝經日德之本也孝之始也  
カヤウノ類トノ字メノ字ナトノ訓ヲ不用

本ハモト、ヨミ始ハハシメトヨムヨリ外  
ニヨムヘキヤウナケレハナリ 敢者或チ  
ト。テノ字ノ、字ハノ字付ヘカラス敢ニ。テ  
ノ字ヲ付者ニノ、字ヲ付或ハノ字ヲ付タ  
レハアエテ。モノ、アルイハトヨムナ  
レハ。テノ字ノ、字ハノ字不可用論議曰我  
無是ト。レノ字ヲ付モアシ、蛇ニ足ヲソフ  
ルナリ是ノ字コノトヨム時ハノ、字付ヘ  
シ吾ノ字モ。レノ字不用ワガトヨムニハガ



ノ字付ヘシ凡正訓ニハステカナ付ヘカラ  
ス變訓ニハ付ヘシ正訓ハ是ヲコレトヨミ  
吾ヲワレトヨムノ類ヲ云變訓ハ是ヲコノ  
トヨミ吾ヲワガトヨムノ類也

緩急ノテニハ 子曰學而時習之不亦說乎不  
亦樂乎此類聖人人ヲサトレ玉フ語意迫切  
ナラス故和語ニモユルヤカニ不亦說乎夕  
ノシカラサラシヤトヨムヘシ曾子曰為人  
謀而不忠乎ノ類ハ是吾身ヲカヘリニセム

ル言ナレハ緊急ナルヘシ故ニ不忠乎トヨ  
ムヘシナラザランヤハユルクシテアシハ。  
カヤウニ語意ノ緩急ヲ見ワケテヨムヘシ  
剛柔ノテニハノ例 本立過思事君  
子行爲人謀與朋友交右ノテニハノ  
如クヨムヘシ是剛ノテニハ也左ハ柔ノテ  
ニハナリ左ハ和文歌書ノヨミヤウナリ經  
傳ニハヤハラカスギテ宜カラス。サレ氏問  
ヲトツテトヨミ買ヲカツテトヨムハイヤ



無加  
黜  
卷上

レ且取ト借トニマギレテアレ、冠ニ經傳  
ニテハ。カンムリトヨミ和文ニテハカフフ  
リトヨム是亦剛柔ノ別子也

既往見在將來ノテニハノ例 既往ハ俗ニ云  
過太ノ事將來ハ未來ノ事也論語雍也有顏  
回者公冶長云雖在縲紲之中述而子於此且  
哭此類ハ皆既往ノテニハナリ有顏回者雖  
在縲紲之中ナトノヤウニ現在ノテニハフ  
用ヘカラス是ステニ過レ昔ノ事ヲサレ玉

ヘハナリ述而子食於有喪者之側是見在ノ  
テニハナリ食ヒヌレハトヨムヘカラス死  
而無悔者吾不與也好謀而城者也雖執鞭之  
士吾亦爲之出日夫子不爲也此類右ハ皆將  
來ノテニハナリ左ニツケタルコトクニ見  
在ノ訓ヲ用ユヘカラス

聖賢之語ヨム法 歷代ノ聖人ノ語皆ノタウ  
マクトヨミナラハセリ。ノタマハクトヨミ  
ス賢人ニハ。イハクトヨム是聖賢ノ別ナリ



但顏淵曰曾子曰有子曰子路曰子貢曰之類  
皆ノ、字付ヘシ凡人ノコトクニ某カイハ  
クト稱シテイヤシメアナドルヘカラス此  
外ニモ高第ノ弟子ハノ、字ヲ付テヨムヘ  
シ。ガトハヨムヘカラス殊ニ顏曾ナト大賢  
ヲアナトリテ。ガトヨム事大ナルアヤマリ  
也帝王ナトノ御讀書ハ定メテ別法アルヘ  
シソレヲ臣下凡人學フヘカラス漢唐宋ノ  
諸賢人殊宋ノ六君子朱子ナトニモノ、字

ヲ付ヘシ但孟子曰宰我曰以予觀於夫子又  
日子貢曰見其禮而知其政有若曰云此等ハ  
孟子ヨリノ玉ヒシコトハナレハガトヨム  
ヘシト云人アリサレ氏孟子モ孔門ノ先賢  
ヲアナトリ玉フヘカラスコレモノトヨム  
ヘシ

語意不絶句ノ例 論語主忠信下ニ猶有句テ  
語意不絶ユヘニ至レトヨム主トストヨ  
メハ語意絶ルナリ君子食無求飽居無求安



又曰興於詩立於禮成於樂此類皆同レヨミ  
キルヘカラス

註用猶字例

論語孝弟也者其爲仁之本與

注爲仁猶曰行仁猶ノ字アル所ハ直ニ其本  
訓ニアラス故ニ爲ノ字ヲコナフトハヨ  
ムヘカラススルトヨンテ行ナフ意ニミル  
ヘシ又事君能致其身注致猶委也イタスト  
ヨムヘシユダヌトヨムヘカラス其義ハユ  
タヌル意ニ見ルヘシ猶ノ字アルハ皆コレ

ニナラヘ論語巧言令色注巧好令善也是ハ  
二字共ニ直ニヨシト注セルユヘ巧言令色  
トヨム直爲注皆コレニナラヘ猶ノ字ノ有  
無差別スヘシ

音訓隨宜音ニヨンテ宜字アリ訓ヨンテ宜  
キ字アリ訓ニヨム字モ上下ノ例ニヨリテ  
音ニヨム事アリ大凡訓ニヨマル、字ハ訓  
ニヨムヘシサレ厄和書草紙ノユトハノ如  
クニハ宜カラス論語敬事敬ノ字ハツ、



異例

レムトヨムケイレテトハヨマス愛衆ヲモロ  
クヲアハレムトハヨマス孝經和民人和ス  
トハヨマス論語不善不能改親於其身爲不  
善此等ハ不善トハヨマス回不敏ナリトハ  
ヨマス是皆斟酌分別スヘシ凡音訓ハ一ヤ  
ウニ難定處多シ訓ニヨマル、字ハ訓ニヨ  
ムガヨキトテモ斟酌スヘシ一槩ニハ云カ  
タシ

假名遣ノアヤマリ 今刊行書 教 養 辨

粹ソシ 引イテ 強コシ 用ユヘ 用ユル 甚哉 植ウケ 食シ

此右ノテニハ皆アヤマレリ左ヨシアイウ  
エヲ五十音ヨコタテノ相通ヲ考ヘテ其是  
非ヲレルヘシ凡カナツカヒトハ五十音ノ  
内ハヒフヘホヲウエヲトヨム時ノ事  
ナリ

音訓一樣ノ例 孝經愛親トヨマハ下ヲモ敬  
親トヨムヘシ上ヲ愛親トヨマハ下ヲモ敬  
親トヨム後ハ愛同敬同トヨム又日口無擇

点列卷上



言トヨムユヘニ下モ身無釋行トヨムヘシ  
 音ニテ行トヨムヘカラス上下音訓一樣ニ  
 ヲムヘシ但一樣ニヨミカタキ處アリ 孝  
 經謹身節用是上ハ身ノ字ヲ訓ニヨミ下ハ  
 用ノ字ヲ音ニヨムヘシ上下一例ニヨミ或  
 前後ニ不拘シテヨム其宜ニシタカフヘシ  
 直ニヨムト返リテヨムトノ點例 經傳ニテ  
 ハ未若貧而樂富而好禮者トカヤウニカヘ  
 リテ正シクヨムヘシ詩ニテハ馮君哀語封

候事又重來兼恐無尋處時人不識予心樂梅  
 穿波底凡船厭水中天カヤウニカヘラス  
 テ上ニテ先ヨミ切テヨシ

省點例 論語里仁篇不能以禮讓爲國杜詩香  
 烟欲徬袞龍浮三體詩欲拂柴門迎遠客右以  
 禮讓徬袞龍拂柴門ナトカヤウニ一二ヲ付  
 スシテカヘリ點ハカリニテヨシ一二ヲ付  
 レハ上ト下ニハ上下ヲ付ルモムツカシケ  
 レハ略シテ一二ヲツケズ



舊訓舊音ノアヤマリノ類 祭統日祭之爲言  
 齊也文言曰潛之爲言也隱而未見論語注曰  
 學之爲言效也此類多レ右ハ舊點ナリアレ  
 シ左ノ點ノコトクヨムヘシ祭之爲言齊也  
 トヨムヘシ又大學註程子曰親當作新此訓  
 アレ、當作新トヨムヘシ此類處處多レ凡  
 某字可作某トヨムヘシ某字作某ハアヤマ  
 リ也飲食トヨム處多シ注ニ音嗣トナクン  
 ハレトヨムヘカラス○堪輿アヤマリテタ

ンヨトヨム○公輸子輸ノ字アヤマリテユ  
 トヨム○灘ノ字ノ訓古訓アヤマリテナタ  
 トヨムナダハ洋ノ字ヨシ難ハ河ノ世ナリ  
 七里灘ト云モナターハアラス河ノ湍ナリ  
 今モ世俗ニコノ誤多シ習而不察ナリ○孟  
 子數罟アヤマリテサクコトヨム○彌ノ字  
 ノ訓ハイヤトヨムコヘニイヲ略シテヤト  
 ヨム音ニハアラス○喪ノ訓ハモナリ或宿  
 儒アヤマリテ音トヲモヒ三年之喪天下通



トモシカフシテトヨム處アリ論語季氏篇  
日而謀動干戈於邦内孟子日而武王亦一怒  
又日而君之倉廩實又日是氣也而反動其心  
中庸北方之強也而強者居之此類ハ而ノ字  
皆上ノ句語勢夕へ而ノ字下ノ句ノ上ニア  
リテ發端ノコトハナリ上下ニツクコト  
バニアラス。シカフシテトヨムヘシ又論語  
不好犯上而好作亂者未之有也又日斯人也  
而有斯疾又日舜禹之有天下也而不與焉又

日爲仁由己而由人乎哉孟子日而孟子之後  
喪踰前喪檀弓日則是遠兄弟終無服也而可  
乎皆此類ハ抑之辭也而ノ字シカルニトヨ  
ムヘシ或シカモトヨムシカモハシカレレ  
也中ノレトヲ略セリ又而ノ字ナンチトヨ  
ム事アリ論語且而從人之士小學稽古篇  
公明宣學於曾子曾子曰宜而居參之門三年  
此類ハナンチトヨムヘシ此而ノ字シカク  
ト訓スル本アリアヤマリナルヘシ論語ノ



トモシカフシテトヨム處アリ論語季氏篇  
日而謀動干戈於邦内孟子日而武王亦一怒  
又日而君之倉廩實又日是氣也而反動其心  
中庸北方之強也而強者居之此類ハ而ノ字  
皆上ノ句語勢夕へ而ノ字下ノ句ノ上ニア  
リテ發端ノコトハナリ上下ニツクコト  
バニアラス。シカフシテトヨムへシ又論語  
不好犯上而好作亂者未之有也又日斯人也  
而有斯疾又日舜禹之有天下也而不與焉又

日爲仁由己而由人乎哉孟子日而孟子之後  
喪踰前喪檀弓日則是遠兄弟終無服也而可  
乎皆此類ハ抑之辭也而ノ字シカルニトヨ  
ムへシ或シカモトヨムシカモハシカレレ  
也中ノレトヲ略セリ又而ノ字ナンチトヨ  
ム事アリ論語且而從人之士小學稽古篇  
公明宣學於曾子曾子曰宜而居參之門三年  
此類ハナンチトヨムへシ此而ノ字シカク  
ト訓スル本アリアヤマリナルへシ論語ノ



註又字書ニモ而ハ汝也ト云ヘリ小學ニ而  
ノ字注ナシトイヘ凡ナンチトヨマサレハ  
通セス史記司馬遷曰假晏子而在余雖爲之  
執鞭所忻慕焉コレハ晏子ニシテトヨミテ  
而ノ字ヲヨムヘカラス此類モ亦アリ  
所以訓 所以ノ二字古書ニ故也ト註セル事  
アリ此ユヘニ古語ニヲシナヘテユヘント  
訓セリユヘントハ故ナリシカレ凡故トヨ  
ムヘト處ハ甚マレニシテ故トヨムヘカラ

サレ處多シシカレハイツクモユヘントヨ  
ムハ誤ナリ處ニヨルヘシ其處ニシタカヒ  
テユヘトヨミ又所以云云トワカチテヨム  
モムツカシケレハ只ヲシナヘテ所以云云  
トワカチテヨムヘシカヤウニヨミテモ故  
ト云意ニソムカスワケテヨムヘキ處ヲユヘ  
ントヨムハ理大ニチカヘリ又所以ノ二字  
ヲ下ヨリカヘラスシテユヘントヨム處モ  
アリ小學嘉言所以君子心又李太白與韓荊



州書所以龍蟠鳳逸之士ト云へル類多レ通  
 鑑漢獻帝紀曹操下今日故在濟南正誤日今  
 按故承上起下之辭猶言所以也又以ノ一字  
 フユヘトヨム處アリ詩旌丘日何其久也必  
 有以也李白宴桃李園序日良有以也  
 則ノ字ヲヨム例 然則トヨマスレテ然ル  
 キハ則トヨム說アリサレトモトキハトヨ  
 マスレテ理ヨクキコユ孝經故以孝事君則  
 忠以敬事長則順論語行有餘力則以學文ノ

類皆レハトヨムヘシ時ノ字ヲ加ルハムツ  
 カレク詞多クナリテ無用ノ贅言蛇足ノ如  
 シ時ノ字ヲテニハニハ用カタシ  
 乃ノ字スナハキトヨムヘシ字書ニ乃辭之緩  
 也又爲繼事之辭乃ノ字モ則ノ字ノ類ニテ  
 則ノ字ヨリハ意ユルシスナハキトヨムヘ  
 キ所ヲイマシトヨムハアシ、又字書ニ乃  
 ハ汝ナリイマシトハ汝ノ字ノ意也汝トヨ  
 ムヘキ處ハイマシトヨムヘシ日本紀萬葉



集ニ汝ノ字ヲイマシト訓ス○又則モ乃モ  
即モ訓ニハスナハチト書ク降ニハスナワ  
千トヨムヘシ。スナハチトヨムヘカラス  
斯ノ字 斯ノ字コレトヨムニハ。レノ字ヲ付  
コ、トヨムニハコ、ト付ヘシコノハ正訓  
ナレハ訓モテニハモ不可用又スナハチト  
ヨム處アリソレニハスナハチト付ヘシ論  
語我欲仁斯仁至矣朱注又程子ノ説トモ二  
則ノ字ノ意也又論語觀過斯知仁矣子游曰

事君數斯辱子張篇立之斯立道之斯行孟子  
君行仁政斯民親其上死其長矣此類皆スナ  
ハチトヨムヘシ字書ニ斯ハ則也即也ト註  
セリ

是字ノ例 是ノ字コレトヨムハ正訓也レノ  
字ヲ付ル事ヲ用ヒスコノトヨムハ變訓ナ  
レハ是トノ、字ヲ付ヘシ子於是日哭孝經  
是故不愛其親ノ類ナリ又是以トヨム處ア  
リコ、ヲト訓スヘシ論語造次必於是ノ類モ



類例卷上

同又是ノ字カクトヨムニモカクト訓スヘ  
レ子路篇言不可以若是其<sup>カク</sup>幾也

此字例 コノトヨムハ正訓也訓ヲ付ヘカラ  
スコレトヨムニハレノ字ヲ付ヘレ孝經曰  
此聖人之政大學此謂知本大學有德此有人  
ノ類

之ノ字 コレトヨムハ正訓ナレハ訓モステ  
カナモ不可用論語時習之<sup>ヲ</sup>蓋有之<sup>ヲ</sup>孟子於傳  
有之ノ類也○之ノ字ヲノトヨム例 大學

之道爲仁之本用天之道因地之利此類ノ之  
ノ字皆ノト訓スヘカラス訓セスレテノト  
ヨム事分明也之ノ字ヲコレトヨム所ニア  
ラス又音ニヨムヘキヤウナケレハナリ俗  
點ニ之ノ字ニノト點付タル處多シ無用ノ  
贅訓ナリ○大學此之謂絜矩之道孝經此之  
謂要道中庸天命之謂性論語其斯之謂與述  
而德之不脩學之不講里仁<sup>ニ</sup>古者言之不出此  
類之字謂ノ字ノ上ニアルハ皆ヲトヨムヘ

類例卷上

一



レコレトヨムヘカラス○其斯之謂與ソレ  
コレコノイ、カトヨムコトナカレ又此之  
謂也モ同又論語吾必謂之學矣堯日不教而  
殺謂之虐孟子賊仁者謂之賊中庸謂之中謂  
之和ノ類之ノ字皆謂ノ下ニアルヲハ之ト  
ヨムヘレ皆レヲ付ヘレ朱子語類日謂之各  
之也之謂直爲也コノ語ヲ以テ證トスヘレ  
又論語亦何常師之有孟子何亡國敗家之有  
コノ之ノ字ハカトヨムコレトヨマス凡之

ノ字下ニアルハ必コレトヨムヘレ夫子之  
求之其諸異乎人之求之與如之何ノ類又老  
者安之朋友信之少者懷之ノ類之ノ字皆コ  
レトヨムヘレ點者ニヨリテ之ノ字ヲヨマ  
スアヤマレリ助語アラズンハヨミノコス  
ヘカラス

在有之別在ノ字下ヨリカヘルニハ皆ニノ字  
ヲツケテヨムヘレ在明明德在正其心在陋  
巷子在齊ノ類也有ノ字下ヨリカヘルニハ



ニノテニハヲ不用サレトモマレニハニノ  
テニハヲ用ル事アリ論語述而誨人不倦何  
有於我哉子罕篇云不爲酒困何有於我哉擊  
壤歌帝力何有於我哉此類ニレニアリ世俗  
往往アヤマリテ在ノ字ヲ可用處ニ有ノ字  
ヲ用ルハ非ナリエラフヘシ習テ不察ハ混  
シ用テアヤマル人多シ

亦ノ字ノ上ノテニハ論語管氏亦有反坫又曰  
是亦爲政孟子公孫丑巫匠亦然ノ類上ヲモ

トヨムヘシ在ノ字上ニアレハ下ヲニトヨ  
ム亦ノ字下ニアレハ上ヲモトヨム故ニニ  
アリモマタト云又モト不讀所モ多シ大學  
言悖而出者亦悖而入中庸純亦不已論語因  
不失其親亦可宗也ノ類ハモトヨムヘカラ  
ス

者字例 子曰今之孝者カヤウニ者ノ字ノ例  
ニ付ヘシ孝者カヤウニ者ノ字ノ上ニ付ヘ  
カラス○起予者商也カヤウニモノハトヨ



ムニハ者ノ字ノ下ニハノ字付ヘシ孝經曰  
愛親者兼之者父也カヤウニ者ノ字ニノ、  
字ヲ付ヘカラス者ノ字ハモトヨリモノト  
ヨムニ又ノ、字ヲ付レハイヤコトニナル  
○者カカラノ勅制ノ書ニ。テイレハトヨム  
處多シソレモ上ノ句ニ付タル字ナリ本邦  
ノ書ニモ古書ニハ。テイレバヲ上ノ句ニツケ  
テカケリ。近代ノ和書ニ下ノ句ノ頭ニヲキ  
テ者カ如件ナトカケリアヤマリナリ者ノ字

ヲ用ル法ヲシラサル也

也ノ字例 其爲人也回也賜也雍也必也其爭  
也ノ類也ノ字ヲ音ニテヤトヨム說アリ也  
ノ字アル事ヲソラニヲホエシメレラレメ  
ンタメ也是亦理ナキニハ非スサレ氏イヤ  
シキヨミヤウナリ凡焉ノ字矣ノ字ナトノ  
類助字多ケレト音ニテハヨマス然レハ也  
ノ字ハカリ音ニテヨムヘカラス且也ノ字  
處ニヨリテヤトヨマレヌ處多シ孝弟也者



可謂好學也已。是可忍也，孰不可忍也。翁如也。純如也。無適也。無莫也。此等ノ類皆ヤトヨミカタシ也。ノ字ニカキラス助語ノ字コトクク音ニテヨミカタシ然レハ也。ノ字ハカリ音ニテヨムヘカラス○也。ノ字ナリトヨム處ナリト訓スヘカラス不<sub>レ</sub>知爲不知是知也カヤウニ左ニタテ點ヲ引ヘシ見義不爲無勇也。モ同又也。ノ字アレ<sub>レ</sub>ナリトヨムガル處多シ。八佾篇是可忍也，孰不可忍也。患不知

入也。素以爲絢兮。何謂也。ノ類ナリ。又易見龍在田時舍也。トヨムヘキラ舍也。トニハヲ付又終日乾乾行事也。カヤウニゾノ字ヲ付ル事イヤシ舍也。トヨムヘシ又也。ノ字ナキ處ニモナリトヨムズシテカナハサ<sub>レ</sub>ル事アリ。其下ニナリト付ヘシ孝經日蓋天子之孝。蓋諸侯之孝。論語其爭也。君子朝聞道夕死可矣。子曰可也。簡大學日知至而后意誠國治而后天下平。又日其命維新。此類ハ也。ノ

點列卷上

〇共



字ナケレトモ皆ナリトヨムヘシ下ニナリ  
ト付ヘシ

苟ノ字 此字イヤシクモ。マコト。モシ。ハタシ  
テ。イサ、カ。凡五ノヨミアリ世俗此ワカ  
チヲシラスシテ只イヤシクモ。トノミヨム  
ハアヤマリ也論語苟患失之孟子苟爲後義  
苟無恒心ノ類ハ苟且ノコ、口ナレハイヤ  
シクモトヨムヘシ論語子曰苟有用我者又  
曰苟正其身此等ハ苟且ノコ、口ナシ。モシ

トヨムヘシ字書ニ苟猶若也ト注セリ  
論語苟志於仁矣大學苟且新此等ハ誠也ト  
註セリ又孟子苟得其養ノ苟ハハタシテト  
ヨムヘキ由字書ニイヘリ又論語子路篇苟  
合是ハイサ、カトヨムヘシ各其所ニヨリ  
テヨミトウカハル一ヤウニイヤシクモト  
ヨムヘカラス。モシトヨム處尤多シイヤシ  
クモトヨムヘキ處ハスクナシ  
爲字例 論語可以爲師此類ハタルヘシトヨ



ニスタルヘシハトナルヘシナリコ、ハ自  
師トナルヘシニハアラス他人ヨリ師トス  
ヘシト也禮記曰凡爲人子之禮人ノ子トナ  
ルトヨムヘキヲトナノカヘシハタメ字ナ  
レハ略シテタルトヨム習ナリナキ處ヲ  
タルトヨムヘカラス論語有子曰其爲人也  
中庸子曰回之爲人也等ハ皆ヒト、ナル  
トヨムヘシヒト、ナリヤトヨムヘカラス  
孟子一遊一豫爲諸侯度此爲ノ字ストヨム

ヘキヲタリトヨムハアヤミレリ下ヨリカ  
ヘリテトナルトヨム所ハ皆タルトヨムヘ  
シサナキ處ハタルトヨムヘカラス憎蒼蠅  
賦見詩人之博物比興之爲精ヲ爲精トツケ  
タル本アリアヤミレリ孟子雖由此霸王不  
異矣霸王トナルト云トモト云意ナリトナ  
ノ反ハタ也霸王タリトヨムハアシ、タル  
トハナルノ略語ナリトナリトヨメハ註意  
ニアズ凡此類分別スヘシ



比字 比及三年比ノ字コロホヒト云意ハ字  
書ニ見エス本邦ノ古人至ル意ヲ會シテコ  
ロヲヒト訓セリ。サレトモコロヲヒハ其時  
ト云意也至ルノ意ニアラス邢昺カ正義ニ  
比至トツ、ケリ然レハ比ノ字イタルトヨ  
ムヘシ

若夫 若夫トハヨムヘカラス孟子梁惠王下  
若夫成功トヨムヘシ此ルイ所所ニ多シ音  
扶ハカノトモソレトモヨムモシソレトヨ

ンテハ文理キコエス曲禮曰若夫坐如尸立  
如齊トヨムヘシ或曰文選之文若及ノ類ナル  
ヘシ然ラハ若夫レトヨムモ不非トイヘリ  
食字 音レヨクハクラフ。ハム。クヒモノトヨ  
ム。音シハ。ヤレナフ。ハマシム。クラハシム。イ  
ヒトヨム。又人ノ名食其ハ井トヨム今ノ人  
食ノ字注音嗣トナキ處ヲモスベテレトヨ  
ム。アヤマレリ注ニ音嗣トアル所ノミヲレ  
トヨムヘシ易頤卦節飲食需卦君子以飲食



宴樂小學二卷恒、飲食非餒莫之敢、飲食皆レ  
ヨクトヨムヘシ、飲食之也トアルハレトヨ  
ムノミクラハシムル也

使字點例 論語日子路使門人爲臣又日能使  
枉者直カヤウニヲメヲハ下ニヨミ付ヘシ  
使門人爲臣カヤウニカヘリ點多クナレハ  
紛レテアシ、字書ニ此意ナシ令ノ字ヲカ  
ヘリテヨムモ同

國人世人例 國人ヲクニヒト、ヨマスレテ

クニタミトヨムハ後嵯峨院ノ御諱邦仁ナ  
ルユヘニ是ヲサケテナリ倭書ニテ世人ヲ  
ヨヒト、ヨマスレテヨノヒト、ヨムハ後  
宇多院ノ御諱世仁ナルユヘニサケテヨノ  
ヒト、ヨム

粵 發語ニ思案レテ物ヲ云出ス時ノ諺今ノ  
俗ノ案レテ物ヲ云ニモア、ト云カコトシ  
コ、ニト訓スルハアシ、尚書周書粵三日  
丁亥類心中ニ思案レ日數ヲカソヘテ云ヘ



ルコトハナリア、トヨムヘシ

親ノ字 音ニテシントヨム處アリ父母ニカ  
キラス親族ヲサス故也中庸九經親親左傳  
大義滅親論語君子不施其親孟子親親仁民  
ノ類ナリ又訓ニテヲヤトヨム處アリ大學  
仁親孝經曰夫孝始於事親又曰愛親者不愛  
其親而愛他人又曰孝子之事親非孝者無親  
小學書題愛親曲禮曰子之事親也ノ類ハ父  
母ヲサスユヘニヲヤトヨムヘシ音ニテヨ

ムヘカラスワキマヘテヨムヘシ又孝經親  
生之膝下因親以教愛ハシタシミトヨムハ  
シ

固ノ字 字書日本然之辭又戰國策注猶信也

モトヨリトヨム處多シ倭俗ニ勿論ト云意  
ノ如シマコトニトヨム處マレナリ文意ヲ  
見ワケテヨムヘシ

事ノ字 君父母天地ニハツカフマツルトヨ  
ム兄長ニハツカフトヨム但言レケキ時ハ



君父ニモ略レテツカフトモヨムツカフト  
云モ恭敬ノ事ナレハ也

爲ノ字 太聲ト音註アラハタメトヨム又ナ  
ストヨンテヨキ處モ舊點ニアヤマリテタ  
メト付タル處多シ察スヘシ

欲ノ字訓 和訓ホツストヨム子カフ意ナリ  
音ニハアラス一説詩ニテハスルトヨムホ  
ツストヨマスト云ハ非也字書ニスルノ意  
ハナシ貪也願也ト註セリ經傳詩文イツレ

ノ書ニテモホツストヨム歌書和文ニテハ  
ホリスルトヨムヘシ萬葉集ニ欲ノ字ホリ  
スルトヨメル處多シ

特字 ヒトリトモ。タヅトモヨムヘシコトニ  
トヨムトコロハマレナリ

且字 與將同意ナリ然字書註且未定之辭  
小補韻會將字注且也

乞與 乞ノ字ノ音キツコツハコフトヨムキ  
ノ音ハアタフルトヨム乞與ハ二字トモニ



アタフル意也字彙乞音氣與也山谷詩乞與  
遊人眼豁開秦少游詩乞與人間向曉看楊朴  
詩年年乞與人門巧此乞ノ字イツレモキト  
ヨムキツトモコツトモヨムヘカラス

還

小補韻會又疾緣切復也尚書還歸在豐  
夕トヨム處ヲホレ或問程子曰孟子還可謂  
聖人乎玉屑高麗使詩水鳥浮還沒カヘツテ  
トヨムヘカラス

矣字例 矣ノ字語已辭也哉ノ意ナレ鮮矣仁

子曰甚矣吾衰也久矣吾不復夢見周公矣矣  
ノ字皆カナトハヨムヘカラス哉ノ字ヲヤ  
トヨム處ヲホレ

盡

何不也 論語公治長篇子曰盡各言爾志  
二度ヨムヘレ

須字 杜子美江畔獨步尋花詩日應須美酒送  
生涯須字字書註意所欲又資也用也子カフ  
モチユトヨムヘレ程子曰涵養須用敬朱子  
日爲學先須立志又日爲學須是專一東坡詩



一年好景君須記歐陽永叔詩野花雖晚不須  
 嗟高菊凋謝詩人生有酒須當醉皆カフモ千  
 ムトヨシテ可也又曰細推物理須行樂今案  
 字彙小補韻會正字通無訓可者古訓ニヘシ  
 トスルハ會意ノ訓セシニヤイブカシ  
 何爲胡爲乎歸來哉論語雍也篇子曰何爲其然也  
 聲賦胡爲來哉論語雍也篇子曰何爲其然也  
 憲問篇子貢曰何爲莫知子也何爲二字語絕  
 下ヨリ返ル字ニ非ス四書翼註等作何故看

涯ノ字 支韻音キ佳韻音ガイ麻韻音ア若押  
 韻ナラサル處ハ大抵ガイトヨムヘシ古詩  
 十九首各在天之一涯ハ支韻ナリ三體詩孤  
 舟相訪至天涯ハ麻韻也處ニ隨テ押韻ヲ見  
 ワケテヨムヘシヲシナヘテガイトヨムヘ  
 カラス  
 壽 コトヲキストハ君父ニ財食ヲタテマツ  
 リ朋友ニ財ヲククリテ祝スルヲ云言辭ノ  
 意手向ト云ニ似タリ史記以千金爲魯仲連



壽十云ル類也然ルニ壽數ヲコトフキ幾十  
歳ナト云ハヒカ事ナリコトフキトハイノ  
千ノ事ニアラス壽數ノ時壽ノ字ハイノ千  
トヨムヘシ

儘ノ字ヘシトヨム事五侯鯖字海第七卷盡  
字部儘字註日音儘可有也頗也○小學嘉言  
伊川日終身儘多也張子曰六經須循環理會  
儘無窮○儘ノ字俗本皆マ、トヨム任也縱令  
也ト云註ニヨレルナルヘシ。ヘシトヨムヘ

キ處ニテマ、トヨムハアヤミレリ義不通  
又案字書儘字與盡同極也トイヘリ又キハ  
メテトヨムヘキ處アリ朱子與劉子澄書日  
通書說幾字儘有警發處コノ類キハメテト  
ヨムヘシ

坐 文選李善註無故自捐日坐捐然レハ坐ト  
ハ無故ノ意ニダリニト云義ナルヘシ  
會 此字先輩所訓タマクトヨム字書ヲ考ル  
ニ偶也ト註セルヲ未見アフトヨムヘシタ



マクトヨムヘカラス晉索靖知天下將亂指  
洛陽宮門銅駝嘆曰會見汝在荊棘中耳李白  
詩會向瑤臺月下逢杜詩會當凌絕頂覽衆  
山小此類皆アフトヨムヘシ

西東シウトウト方ヲヨミツクルハ無用ノ贅言ナリ  
タゞニシヒカシトヨムヘシ南北モ同

干 李太白與韓荊州書徧干諸侯此訓非也モ  
トムトヨムヘシ戰國策伊尹負鼎俎而干湯  
ノ干ト同孟子伊尹以割烹要湯ノ要ノ字ト

同意

他本用異字者傍書例ニ作某ト他本ニアル字  
ヲ某ノ字ニカヘテカクヘシ俗ニイニ某ト  
カクハ異本ニハ此字アリト云ナラン國  
字ノ書ニハサモアルヘシ眞字ノ本ニハ宜  
カラス

點例卷之上終



點例卷之

Pointing examples in Kanji, mostly illegible due to fading.

點例卷之下

貝原篤信 編錄

經籍點例

孝經中於事君 中ノ字ナカコロレト舊點ニ  
アリ中於事君トヨムヘシ  
語字 孝經復坐吾語汝論語中人以上可以語  
上也注皆去聲トスツグトヨムヘシカタル  
トヨムヘカラス印行ノ本多クハ去聲ニモ  
カタルト訓スアヤマレリ



孝經親生之<sup>レ</sup>膝下トヨム玄宗御注ノ意ナリ此  
 文勢孝經終ノ章ノ爲之<sup>レ</sup>棺槨衣衾ト同レ  
 歸字 大學之子于歸 歸ノ字公羊傳註婦人  
 以夫爲家故謂嫁爲歸レカレハカヘルトヨ  
 ムヘレカヘルトヨマデカナハサル註也ト  
 ツグトヨムヘカラス。トツクトハ家ニカヘ  
 ル意ニアラス。男女ノ交接スルヲトツグト  
 云甚私褻ノ事ヨミカダクキ、ニクシ詩經  
 匏有苦葉ノ士如歸妻トヨムヘレ大學學養

子而后嫁ノ嫁ノ字ハカスルトヨムヘレト  
 ツグトヨムヘカラス  
 大學章句序自王公以下至於庶人 至マテハ  
 アレ、其下ニ以至於公卿大夫 云ニ此類皆マ  
 テトヨムハアレ、贅言也至トヨムヘレ又  
 孟子太公三年不反是モマテニハアレ、三年  
 不反トヨムヘレ  
 壹是 大學章句ニ一切也トアルヲアレク心  
 得テ音ニテ壹是トヨム甚非也壹是トツ、



ケル詞ナレ注ノ意ハ壹是トハ一切ト云意ナリト云事ナリ

大學注舉此而錯之耳世俗コレヲアゲテステ  
ヲクト見ル故ニ錯之トヨムアヤマレリ繫  
辭舉措之天下則謂事業ヨリ出タリ錯之ト  
ハ施置天下國家也カヤウノ類ヨク考察ス  
ヘシ

論語克己 或舊點己ノ字ヲワタクシトヨム  
非也朱注己者身之私欲也トアルヲ見アヤ

ミレル也已ハ私也トハナシ己ノ字ニ私也  
ト云訓ハ十三經註疏ニモ又イツレノ字書  
ニモ見エズ己トハ我身ノ事ナリ私欲ハ身  
ヨリ出ル故ニ朱子會意シテ身之私欲也ト  
注セリ私ト注スルニ非ス私ト訓スレハ己  
ノ字用タル本意ヲ失ナフ

非禮勿視 我身禮ニアラスレテミル事ヲナ  
クスト也聽言動モ同此字ノヲキヤウ亦例  
多シ程子易傳序太古雖遠莊子爲善無近名

古訓



爲惡無近刑ノ類ト同勿ノ字ナカレ或ナク  
ストヨムヘシ朱注曰禁止辭程子聽箴終非  
禮勿聽此勿ノ字ナクストヨムサレハ義不  
通コレヲ以テナクストヨム證トスヘシ  
正牆面此點ヨシヲモテニカキレテカキニ  
ムカヒテ皆アシ、千載集ノ序ニモヲモテ  
ヲカキニシテトイヘリ

子謂子賤註上斯斯此人下斯斯此德詩經殷其  
雷注曰何斯斯此人也違斯斯此所也カヤウ

ニヨムヘシ俗點斯此人ハアシ、

無寧 語子罕篇無寧死二三子之手乎集註無  
寧寧也

無乃 季氏篇求無乃爾是過與正義曰無乃乃  
也無乃ノ二字ムシロトヨムハアヤマリ也  
二字ニテスナハキトヨムヘシ無寧ハ寧也  
ノ類ナリ

藻 語公冶長篇山節藻梲 順和名藻和名毛  
波モハトヨムハ古訓ナリ



從事 昔者吾友從事於斯矣泰伯篇コトニコ、ニシタカヘリトヨムヘカラス事ノ字從事ノ時ハ活字也コトニトヨメハ死字トナルシタカヒコト、セリト云意也專ニ務ムル意也

終日 子曰吾與回言終日トヨムヘシコ子モストヨムヘカラス終日ノ下ニテヨミキル故也此終日ハ一日ヲ、ハル意一日ト云意ニアラス吾嘗終日不食ノトキハヒ子ム

ストヨンテモヨシ但歌書ノ如ク和語ニヨ  
マンモヨロシカラス。タゞコエニテレウシ  
ツ不食トヨムヘシ又終日不食モヨシ

論語學而篇註謙退不敢質言 曲禮疑事勿質  
學而ノ註質言ユレニ本ツケリ質註成也世  
俗質言ト訓スルハアヤマレリ

孟子飽食暖衣逸居カヤウニカヘリヨムヘシ  
飽食暖衣逸居トヨムヘカラス衣ノ字キル  
トヨム時ハ去聲ト音注アリサナキ處ハ平



聲ナレハコロモトヨム衣トヨムトキハ音  
注ナシ又飽食カヤウニヨムヘカラス飽食  
ニテヨシマテニシハ贅言ナリ凡贅言ヲ用  
ユヘカラス

告子 孟子注疏及朱子説トモニ浩生不唐ト  
一人トス然レハ告ノ字カウトヨムヘシコ  
ク子トヨムヘカラス告ノ字去聲ナレハ孔  
子ノ孔上聲ト同聲ニヨムヘカラス不然孔  
子ト音混同スヨニワクヘシ

見字例 孟子見梁惠王マニユトヨムヘカラ  
スニルトヨムヘシ陽貨欲見孔子孔子不見  
是モマニエストハヨムヘカラス注賢遍反  
トカ或音現トカアラハマニユトヨムヘシ  
マニユトハ往テ主君ニ目見エスル也ニル  
トハ對面スル也マニユルモ對面ナレトモ  
ニルトマニユルトヨニワケサレハ賢遍ノ  
反トヨニワケヤウナキユヘナリ

些 孟子有些英氣白玉蟾詩雪裏吟香弄粉些



註些無多也

詩經邶風泉水詩駕言出遊言ノ字ワレト訓ス  
ヘカラス古註疏及朱傳ニワレト訓セス歸  
去來辭復駕言兮焉求ノ言ノ字モコ、ニト  
ヨムヘレ

詩日對越在天 越字與於同語助也越ノ字ハ  
ヨムヘカラス越ノ字コ、ニトヨム人アリ  
非ナリ

四書五經篇ノ名ノヨミヤウ論語衛靈公衛靈

公トヨムヘカラス孟子梁惠王ヲ梁ノ惠王  
トヨムヘカラス滕文公ヲ滕文公トヨムヘ  
カラス書經ノ五子之歌詩經ノ麟之趾十月  
之交鷄之奔奔定之方中ハ皆之ノ字ヲコエ  
ニテヨム但鹿鳴之什生民之什等ノ之ノ字  
ハノトヨムヘレ是ハ篇ノ名ニアラス諸篇  
ヲスヘテ某之什ト云ユヘナリ篇ノ名ハ各  
目ナリ鹿鳴之什等ハスヘテ名ツクルコト  
ハナリ名目ニアラス



昔者 經書處處ニアリムカシトヨムヘシム  
 カシハトヨムヘカラス  
 來字ヲ助語トセシ例 孟子離婁上伯夷辟紂  
 章曰盍歸乎來章圖曰來語助也盡心下曰孔  
 子在陳曰盍歸乎來莊子人間世曰子其有以  
 語我來希逸注曰來助語也史記孟嘗君傳長  
 鈇歸來乎陶淵明歸去來兮程子曰曷嘗有孝  
 弟來崔塗詩家在五湖歸去來此等ノ來字皆  
 同語助ナリ

典イホク春イホク衣イホク 杜詩ニ出タリ典字諸字書ニヲキノ  
 ルト云註ナシ類書纂要ノ註ニヲキノルノ  
 訓アリ  
 註以貌字ヲ說例 大學有斐君子注斐文見又日  
 瑟兮儻兮注瑟嚴密之兒儻武毅之兒カヤウ  
 ニ注ニ何ノ貌ト形容シタルコトハ、皆タ  
 リトヨミ或タル或何トメトヨムヘシ何ノ  
 貌トモナキ處ハナリトヨムヘシタリトヨ  
 ムヘカラス

典列卷



古詩十九首第一首行行重行行、印行ノ文選  
行行ト點スアヤマレリツ、ケル字ニハア  
ラス

說 韓文師說雜說蕪文稼說等ノ說字セツト  
ヨムヘレセイトヨムハ非也音稅ハ說誘以  
言說人使從已者也古人之文ヲ見ルニ說ノ  
體ハ人ヲ己ニシタカヘレマンタメニ作ル  
ニアラス只其意ヲトカンタメ也遊說ハセ  
イトヨムヘレ

某猶某也某也 經傳カヤウニ註セル處アリ  
如此點レテヨレ猶某也某也トヨムヘカラ  
ス

與字 論語日禮與其奢也寧儉喪與其易也寧  
戚此與字諸註及字書無由從之訓故ニヨリ  
トヨマスレテト、ヨムヘレト云人アリサ  
レト孟子獨樂樂與人樂樂執樂ノ與ノ字ト  
置處カハレリカヤウノ處會意解ニテ注十  
クトモ理ノ通スルヤウニ訓スヘシ



約束 ヤクソクヲヨウシユトモヨム字彙約  
又一笑切束又商遇切義同トアリ然レハ兩  
様ヨシテ可也

取次 ユレハツ、キタル字ニハアラス故ニ  
諸書ニモ註ナシ取次トヨムヘシ或三タリ  
ニトヨムモアリ又下學集ニシトロトヨム。  
タヤスクトヨム人モアリタヤスクハツイ  
テヲトル意アレトモ二字ヲツ、ケテ訓ス  
ヘカラス羅豫章詩云不許庸人取次來性理

羣書註容易ノ意ニテ説之類書纂要以循序  
説之尺牘奇賞亦然サレトモ容易也ト云註  
ナシ取次トカヘリテヨムヘシ。タヤスクト  
ヨムヘカラス。ニタリトヨミシドロニトヨ  
ム皆ソムケリ取次レダイクニタヤスクト  
云意。シトロト云ハ次第ナキ意ウラヲモテ  
反セリ

二十八宿 宿字音秀トヨム説アリ然レ氏ホ  
レノヤドリノ事ナレハシユクトヨムヘシ



ト 嬾真子ニイヘリ

書ノ頭書ヲ標注ト云又頭書ノアル所ヲ上方  
ト云イツレモカラノ書ニ出タリカラノ今  
世ノ印行ノ雜書ニ首カキヲ標注トハ云ハ  
スノ蠶頭ト云俗說ナリ正證トシカタシ不  
可用

留別寄別 我他所ヘユク時詩ヲ人ニヲクル  
ヲ留別ト云人ハ留リ我ハユク時也詩ヲト  
メテワカル、也人ノ他ヘ行時我ヨリ人

ニヲクルヲ寄別ト云人ハユキ我ハ留ル時  
ナリ我ヨリ人ニ寄テワカル、也

影カゲ日光ノアタル  
影ヲ云エウカゲド云  
陰 日ノアタラヌ處  
井シカケト云

孟子梁惠王上胡斲音核トアレヒコツトヨム  
ヘシ小學立教泉ノ字ノ音註音洗トアレヒ  
レトヨムヘシ尚書蔡沉ノ沉ノ字音澄トア  
レヒチントヨムヘシ皆通音ナリ

人名 各綴臯陶 叔向 劉向 金彭 檣漢人各  
考畧云日字彌畢切音密又琅瑯代辭編日宋  
公鹿言金日禪日字只是如字別無借音シカ







國書訓例

日本神代

正哉吾勝勝速日ノ上ノ勝ノ字彦彦火

下ノ彦ノ字略レテヨ瓊瓊杵尊ノ字彦彦火

武鸕鷀野耆不合尊ノ武ノ字ニヨニスルウ田心

姫湍津姫市杵嶋姫凡下ニヨニスルヒメノ

本通姫倭姫底筒男命中筒男命表筒男命川

橋姫皆同字ヲ加フヘシ表ノ字ウハト

帝王綏靖神功皇后允恭崇神崇峻

皇極天智智ノ字持統上ハニコリ下ハス

ス淳和ム上ヌ光孝冷泉後深草崇光  
 崇道天皇此大鏡ニ如亭子院朱雀院歌書ニ  
 サク崇徳院歌書ニテハ乙牟呂ヲトヨ  
 トハヨニズ恒ク井シムヲトヨ  
 武ノ后ナリ舍人ヲヤドト子リ阿保親王  
 人臣舍人親王トヨムミナアシ、山邊赤人  
 アホウト井上親王早良太子  
 ハヨミス昭宣公宣ニ不比等ハアヒウ三善清行  
 字ツカラトヨ人麻呂貞信公殿下上スミ  
 ムヘカラスノ字大中臣ニゴル



歌集源忠 平中興 菅野忠臣 寵女名與

源等 藤時雨 藤雅正 藤清正 源

小野遠興 宗誠 平公誠 藤信臣

源巨謙 輔尹 大伴方見 宿禰 又室ノ文

字ニゴ 坂上 大僧正行尊 二字ニ 藤義孝

涼宇合 長能 秀能 賀能 大江匡房

權中納言 中ノ字 伊周 舉周 祿舉

綜理 橘逸勢 朝野 羣載ノ寛信 玄上

高向 愛成 信明 南淵 又地名 味酒 下チサ

子ケコ 類 巾子 之冠 有 菑 八ノ

ヨムフ 職事 官掌 後取 御隨身 元

視告 湖 視ノ字 畫御座 ヨヒ

攝津 ツツト ヨムセ スツキ 巧 定考

極ス 白馬 御修法 ヨノホ ヲト ヲム

初夜 川ノ字 賀茂川 凡下 付夕 大極殿







知字也固難訓書亦非易音訓是毫釐必  
 義意懸隔豈啻乎萬里而己哉益軒貝原  
 先生深憂之博考經史子集之注意集成  
 點例一冊予何幸得一覽之不堪雀躍屢  
 清而益力遂以公于世  
 元祿癸未仲冬

書林柳枝軒茨城方道謹書



貝原先生編述目次書林柳枝軒藏版

小學句讀 <small>改点</small>	筑前名寄 <small>二</small>	大和俗訓 <small>八</small>
家道訓 <small>六</small>	樂訓 <small>三點例</small>	京都めくり <small>一</small>
大和めくり <small>一</small>	有馬名所記 <small>一</small>	鄙事記 <small>八</small>
三禮口訣 <small>五</small>	木曾路之記 <small>一</small>	日光名所記 <small>一</small>
菜譜 <small>三</small>	蒲州めくり <small>五</small>	吉野山圖 <small>三</small>
慎思錄 <small>六</small>	續和漢名數 <small>三</small>	日本釋名 <small>三</small>
文武訓 <small>六</small>	初學訓 <small>五</small>	神祇訓 <small>三</small>
和學一步 <small>同</small>	扶桑紀勝 <small>同</small>	日用良方
教務家 <small>さしりき</small>	東海乃の記	同附錄
農業全書 <small>十二</small>	和爾雅	和漢事始 <small>十三</small>
諺州 <small>九</small>	孝經釋義便蒙	續蒲州めくり

享 保 六 歲



